

ドル/円相場のトレード戦略

■ 中長期展望

昨年末は米国の大統領選挙でトランプ氏が勝ったことにより、同氏の大型減税やインフラ投資政策、金融規制の緩和期待などから米景気加速を先取りする形でドルが上昇し、ドル/円は2ヶ月で20%近い大幅な上昇となりました。

【ドル/円 週足】



このドルの上昇は、それまでに積み上がっていたドルショート巻き戻しが先行し、その後ドル上昇を予想する投機筋によって一段と買い上げられたことによって急進行しました。

しかし、年明け以降は、トランプ新大統領が人民元に対してのドル高をけん制したことや、今後保護貿易主義的な政策を打ち出す懸念などからドルの上値が抑えられる動きとなっています。

これまでトランプ大統領が発信してきた経済政策はドル高促進的なものであることは間違いがなく、発信どおりの政策が実施されるのであれば、ドル高基調は継続されるものと考えます。

ドル上昇を基本シナリオとした場合、リスクもはっきりしており、それはトランプ政権が実際に打ち出す政策が市場を失望させるものであり、米景気に陰りが出てくることであると考えられ、トレードに際しては米景気動向に注意していく必要があるでしょう。

また、保護主義的な貿易政策や外交政策はドル高を抑制する要因となり、マーケットの焦点がこれ

ドル/円相場のトレード戦略

らの問題に集中したときには一時的なドル安が起きるものの、大きな影響が出てくるには時間がかかるため、トレードをするうえではまだ先の材料といえるでしょう。

いずれにしても、当面のドル/円相場は米国の新政権の動向に左右される展開が続くものと思われる。

■ 短期展望

先週は、トランプ米大統領が TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）から離脱する大統領令に署名したことやムニューチン次期米財務長官が「過度に強いドルは短期的にマイナス」と発言したことからドル売りが強まり、112 円 53 銭まで下落しました。

しかし、同大統領がパイプラインの建設プロジェクトを推進させる 2 つの大統領令に署名したことや、NY ダウが史上初めて 2 万ドルの大台に上昇したことが材料視され、ドルを買い戻す動きが強まり 115 円台を回復して週越しました。

今週は、今年最初の FOMC が開催されるもののイエレン議長の会見はなく、また週末には米雇用統計が控えていることから、相場は模様眺めムードが強い方向感の出にくいものとなる可能性が高いように思われます。

ただし、ドルの下値は 112 円半ばを底としたダブルボトムが形成されつつあり、この水準を下回らない限りドルの底堅い動きは続きそうで、直近の高値である 115 円後半を上抜いてきた場合はもう一段上値余地が広がる動きとなりそうです。